

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	川西市立加茂小学校 職・氏名 栄養教諭 川上 陽子	研究チーム名 (食教育研究会)
-----------------	------------------------------	--------------------

研究テーマ分類番号 (7)

(1) 研究テーマ
食を通して社会情勢を知り、授業や生活に活かせる食教育をめざして
(2) 研究経過及び具体的な取組
<p>7月25日 中央市場見学</p> <p>実施場所及び参加人数：大阪中央卸売市場本場 14名</p> <p>見学内容：市場概要の説明とビデオ観賞 果物・野菜・水産・加工食品等の売り場見学</p> <p>成果と課題：生鮮食料品の流通における中心的な役割を担っている市場を直接見学することで、流通の仕組みや東日本大震災の影響が良く分かった。学校給食を運営したり、指導したりするうえで風評被害にとらわれず正確な情報を発信することの大切さ等、参考になることが多かった。</p> <p>8月4日 食育セミナーの開催</p> <p>実施場所及び参加人数：川西市立川西小学校（やなぎホール） 36名</p> <p>講演：小児歯科院長 演題：「給食でお米・噛む・カム能力アップ！～噛むこととお米と学校給食の親密な関係～」</p> <p>成果と課題：ライフスタイルの変化に伴い、食生活が大きく変化した結果、現代っ子の口に何が起きているか写真で見せていただき、問題点を示唆いただいた。しっかり噛んで食べる、お米を中心とした日本の食文化を伝承していくことの大切さを再確認できた。</p> <p>9月25日 かわにし食育フォーラム2011「ヒトは食により人となる 一家団らの食事が育むもの」</p> <p>場所：川西アステホール</p> <p>参加内容：学校給食や食育のパネル展示・給食のメニュー配布</p> <p>成果と課題：市全体で食育の取り組みについて交流できた。</p> <p>また、講演では、「弁当の日」の取り組みを通して、私たち大人が子どもたちに何を伝えなければならないのか、大人として何をしたらよいのか、食を通して生き方を考えさせられる貴重な時間となった。できるだけ多くの人に食を通して自ら学ぶ大切さや、食が人を育てることを伝えていきたい。</p> <p>9月29日 「食に関する指導の全体計画」「食に関する年間指導計画」充実にむけて（1）</p>

実施場所及び参加人数：教育情報センター 12名

成果と課題：学習指導要領（平成の20年3月31日）の総則に食育の推進が明記され、平成20年6月に改正された学校給食法で食育に重点が置かれるようになった。学校給食を生きた教材として食育を推進するために、様々な教育活動に活かすかせる献立を立案したり、各教科との関連を図りながら「食で授業」を提案したりすることが大切である。児童が学んでいる教科書を確認しながら、効果的に計画・実施する方法の交流・検討ができた。今後、定着が図れるよう努めねばならない。

1 1月14日 農業体験

実施場所及び参加人数： 多田農園 8名

成果と課題：燻炭の作り方と役割、農作業体験（土作り、手入れ、収穫、保存方法・わらの利用等） 農家の方から経験を通しての知恵を教えてもらい、安全でおいしいものを得るための工夫がよくわかった。土やわらをさわると、とても落ち着いた気持ちになり、自然とともに生きることの大切さを体感した。体験を通して学ぶことの大切さを子どもたちに伝えていきたい。

1月6日（午前）食教育研究会研修講座 （予定）

実施場所：教育情報センター

講演：大阪青山大学健康科学部健康栄養学科長教授

（川西市食育推進会議会長）

「食から広がる元気なかわにし」学校の役割・できること・川西が元気になる取り組みについて

1月6日（午後）「食に関する年間指導計画」充実にむけて（2）（予定）

1月17日 おむすびの日 炊き出し給食 （予定）

実施場所：川西市内各小学校

実施内容：この事業に取り組み可能な小学校で、おもに3年生を対象に、給食で炊飯するお米を「かまど」で炊飯して食べる。災害時に命をつなぐ食事づくりの困難や苦労を実感させることと、3年生の社会科教材「昔のくらし体験」との関連を持たせることを目的とする。

1月28日 P T C Aフォーラム 学校給食・食育についてのパネル展示 （予定）